

## 1. 自己紹介

千葉県流山市にあります勤医会東葛看護専門学校 山田かおるです。

本日は、コロナ禍のなかで今看護学生がどのような状況そして思いで学んでいるのか、また看護学校はどのような困難を抱えながら看護師養成を行っているのかをお伝えしたいと思います。

## 2. 学生の声（動画）で紹介

先ほどのアンケートで1127名のアンケート調査結果を報告しましたが、続いて学生たちの声をお伝えしたいと思います。本来であればこの場に同席できるとよかったです。本日も1日授業を受けておりますので、動画でお伝えさせていただきます。ご覧ください。

経済的困難を抱えている看護学生たちはとても多く、コロナ禍前から奨学金だけでは学業継続が困難で8割の学生がアルバイトをせざるを得ない状況でした。そのアルバイトが、コロナ禍のなかで大幅に制限され、生活費や授業料支払いに困窮している状況がうまれています。しかし看護学生たちは、経済困難のなかでもコロナ禍だからこそ国民の命を守る看護師になりたい、そして人々の役に立ちたいとがんばっています。ぜひ看護学生たちの学びの基盤となる経済的支援を継続してお願いします。

## 3. 看護師養成校への支援について

- ① 現在 ICT 環境のための補助金には制約があり、200万円以上費用を要した場合に限り保障されることになっています。本校を例にしますと、学校内の LAN 工事をはじめとしてオンライン授業をするための機材を整えるために約140万円かかりました。しかし、200万円に至らないため補助金の申請は出来ませんでした。オンラインの施設環境は学校によって全く違います。ICT 整備の補助金は、学校の実情に合わせた費用を支援していただきたいと思います。
- ② 現在病院での臨地実習が困難になり、シミュレーターを利用して学校内で学内実習を行わざるを得ない学校がとても多くなっています。実習補完事業は、都道府県がシミュレーターをレンタルリースして県内で共有する取り組みで、千葉県においては昨年末から始まりました。しかし、20校に及ぶ学校で年度末までに4体のシミュレーターを順番に使用する現状のため、実習補完には至っているとは言い難い状況です。本校では学生40名に対し1台のシミュレーターを2日間レンタルし、半日で演習を行わざるを得ない状況です。使用期間が終わったら梱包をして次の学校に送るような状況です。限られた時間内で全学生に十分な環境を保障するにはあま

りにも不十分です。さらにこの事業は今年度末までになっています。学校によって臨地実習の状況、学生数、教員数、そして学校内の演習用具等環境は違うため、学校の実情に合わせた実習補完が出来るように検討をお願いします。

- ③ 感染予防対策のために、消毒液・清掃用のペーパー等衛生備品を準備して、昼と夕方の一斉清掃と使用教室ごとに、1日数回の消毒を行い、安全な学習環境づくりを続けています。消毒液、清掃用アルコールやマスク、そしてアイシールドが購入できない時期は、職員たちが休みや夕方備品を探して購入し、教育環境の整備をしてきました。本校のように120名の小規模校であっても、衛生品費用だけでこれまで40万円以上かかり、さらにアクリル板や換気のための備品等環境設備費は135万円程費やしています。これからも継続していかなくてはならない、感染予防対策費の助成をお願いします。

本校が現在までにコロナ関連費用として掛かった費用は2103,068円です。昨年度までに全くかからなかった費用です。

- ④ 臨地実習が行えない状況が続く中で、実習の保障をどのようにしたらよいか、さらに臨地実習に変わる学内実習はどのような内容が適切か等、各学校が独自に検討しながらつくり上げてきました。さらにオンライン授業では公に相談や助言を頂けるところがなく、独自に研究し開発しながら進めてきました。オンライン授業の推進が国の政策であるならば、現場まかせでなく積極的な支援をお願いします。このような状況を県・国は責任をもって把握していただき、適切な学校運営のための助言をしていただきたいと思います。どうぞ、よろしくをお願いします。

最後になりますが、コロナ禍のなかで予定どおりにカリキュラム運営をすることが出来ず、また臨地実習場の状況によってカリキュラムの大幅な変更を余儀なくされ、何通りもの時間割を作成して、変更に変更を重ねて本日まで運営をしてきました。2度目の緊急事態宣言が出された現在、学校は感染者を出さずに教育活動をするために、緊迫した状態が続いています。さらに今後は卒業年以上に、低学年の学生たちに困難が生じてきます。看護技術を獲得するための演習や臨地実習もできない状態が続くことで卒業時到達の低下が予測されます。コロナ禍前より指摘されてきた看護師不足がコロナ禍で喫緊の課題になっています。

この現状のなかで看護師を目指す看護学生は、医療の未来を拓いていく存在であると思います。さらに、看護学生の養成機関は国民の命を託されていると思ひながら、看護教育に携わっております。困難な医療情勢だからこそ看護師になりたいと学ぶ看護学生の学習環境を保障するための支援を、どうぞよろしく願いいたします。